

SHIRAKOBATO

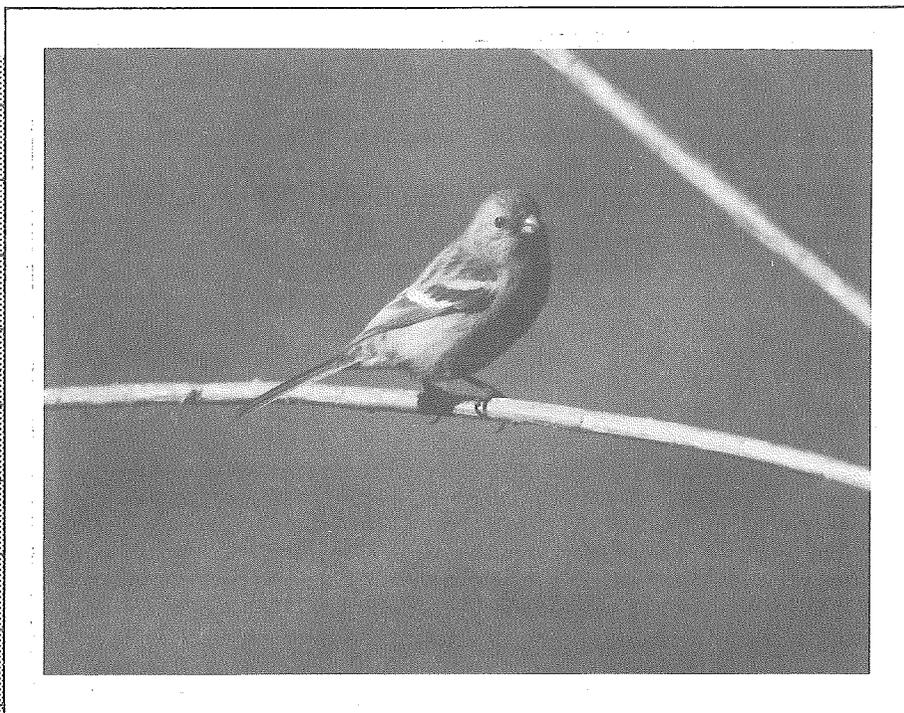
しらこぼと



1995. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 140

日本野鳥の会 埼玉県支部

白馬の野鳥たち

埼玉県支部の皆さん、こんにちは。今日は、^{はくば}白馬村移住、及び、小屋経営初体験一周年を記念して、白馬の野鳥たちをご紹介します。

右ページのリストは、私自身が確認したものに限りませんが、四季それぞれの鳥達の様子を白馬の自然と共にご想像いただければ嬉しい限りです。

●はじめに

白馬周辺の立地特性について概略を説明いたします。白馬岳は北アルプス最北部に位置し、標高は2933m、気候は日本海型に近く、夏は「花の山」冬は「雪の山」としてつとに有名。

当小屋は^{しやうま}白馬岳の直下、標高830mの山麓に位置し、周辺は広葉樹林、半湿原、野草地に囲まれ、溪流も近いなど自然環境は変化に富み、質にも恵まれています。冬期は2m以上の積雪が普通。豪雪の高地では夏近くまで大量の雪が残りますが、結果として山麓の土壌は極めて湿潤になり、環境に適する植物がうっそうと繁茂します。それに伴ない昆虫等が大発生し、餌を求めて多くの野鳥達が飛来します。

●春

白馬山麓（当山小屋周辺）の雪融けは4月初めから。草木の芽ばえなど春の息吹が顕著に認められるのは4月半ばを過ぎてから。いまだ厳冬期の白馬連峰をバックに春の花々、新緑と共に鳥見に時を過ごす楽しみは極上のもの。適期は4月半ばから6月末まで。中でも5月がベストと思われます。

鳥達の目玉はクロツグミ、オオルリ、キビ



テンも来ました。(松井昭吾)

タキ、ノジコ、サンショウクイ、など。シーズン前半は渡り途中のアトリ科、ホオジロ科の仲間、後半はアカショウビン、サンコウチョウの可能性あり。上手にポイントを回れば山麓だけで50種は見られるでしょう。

又、来春は巣箱かけにトライの予定。コムク、ニューナイから予約を受けたので是非でも作らねばならんです。

●夏

山歩きを兼ねての鳥見がポイント。しかし、白馬岳は残雪が多いので、楢池自然園、八方尾根など標高2000mの中腹でやっと6月中旬から、高地の稜線登山は7月にならないとだめ。それ以前は労多くして実り少なし。適期は中腹高地共8月上旬まで。鳥達はコマドリ、ウソ、ルリビ、カヤクグリ、ムシクイ類、アマツバメ類など。稜線歩きではライチョウが多く、他にホシガラス、イワヒバリなど。白馬岳は通称「花の山」と言われる通り高山植物が素晴らしい。山のさわやかな冷気の中で鳥も花も……、これまさに天上の極楽。山麓は草木の緑がやたら濃く見づらいのですが、なぜか当地は7月末まではさえぎり止まず。じっくり探せば高地の連中と合せて60種類以上は可能です。なにせ当地は姫川流域から山頂まで2400mの標高差があり、ロープウェイ等の機動力もあるので。種類数にのみこだわるは邪道なるも、時には必死にトライして歩くのも、また面白きかな。

●秋

紅葉シーズンは9月下旬から11月上旬まで。高地から山麓まで日一日ピークが移動してゆく様はなかなか見応えがあるもの。なかでも10月中旬あたり初冠雪の頃、絶好の日よ
(→4ページに続く)

出現鳥リスト（長野県白馬村内、1994年7月～1995年9月）

鳥種名	春	夏	秋	冬	コメント	鳥種名	春	夏	秋	冬	コメント	鳥種名	春	夏	秋	冬	コメント
トビ	◎	◎	◎	○	どこにでも	カヤクグリ		○	○		禊池自然園	シメ	○				少ない
イヌワシ		△	△		高地で営巣	イワヒバリ		◎	○		稜線に多い	スズメ	◎	◎	◎	◎	たくさん
クマタカ	△				東山方面	コマドリ	○	◎			自然園に多い	ニュウナイスズメ	◎	○			巣箱OK
ハチクマ	○	○	◎		けっこう多い	コルリ	◎	○			そこそこに	ムクドリ	◎	◎	◎		畑地に
ノスリ	◎	◎	◎		普通種	ルリビタキ	○	◎	○		高地に多い	コムクドリ	◎	○			巣箱OK
サシバ	○	○	○		まあまあいる	ジョウビタキ	○		○		多くない	カケス	◎	◎	◎	◎	かなり多い
オオタカ	△	△	△		少ない	トラツグミ	○				少ない	ホンガラス		○	○		中腹以上
チョウゲンボウ	○	○	○		平地水田	クロツグミ	◎	◎			かなり多い	オナガ				○	一時的
ヤマドリ	○		○		2家族いる	アカハラ	○	○			多くない	ハシブガラス	◎	◎	◎	○	あっちに行け
キジ	○	○	○		平地水田	ツグミ	○		○		意外に少ない	ハシボソガラス	◎	◎	◎	○	これも
ライチョウ		○			稜線上	マミチャジナイ			○		滞留1週間	-----					
アオバト			○			ウグイス	◎	◎	◎		かなり多い	カイツブリ	○	○	○		姫川ダム湖
キジバト	◎	◎	◎	○	普通種	ヤブサメ	○	○				カムリカイツブリ	○		○	○	姫川ダム湖
ホトトギス	◎	◎			極めて多い	メボソムシクイ	◎	◎			中腹で多い	コサギ	○	○	○		田んぼ
ツツドリ	○	○				エゾムシクイ		○			多くない	ダイサギ	○	○	○		田んぼ
カッコウ	○	○			意外に少ない	センダイムシクイ	○				まあまあ	アオサギ	○	○			田んぼ
ジュウイチ	○	○				キクイタダキ	○	○	○		まあまあ	ヒクイナ	○	◎			周辺湿地
フクロウ	○	○	○	○	3月に鳴き声	オオヨシキリ	○	○			あし原に少々	カルガモ	◎	◎	◎	○	姫川ダム湖
ヨタカ		○				オオルリ	◎	◎			かなり多い	マガモ	○		○	○	姫川ダム湖
カワセミ	○	○	○		平地・姫川	キビタキ	◎	◎			かなり多い	コガモ	○		○	○	周辺湿地にも
アカショウビン		○			近くに来る!!	エゾビタキ			△			オシドリ	○	○	○	○	夏は上流へ
ヤマセミ	○	○	○		姫川支流	コサメビタキ	◎	○			春にめだつ	キンクロハジロ	○		○	○	
アオゲラ	◎	○	○	◎	冬に集まる	コガラ	◎	○	○	◎	冬に集まる	ムナグロ	△				田んぼ
アカゲラ	◎	○	○	◎	冬に集まる	ヒガラ	◎	○	◎	◎	全域に多い	イソシギ	○				姫川
オオアカゲラ		△				ヤマガラ	◎	○	○	◎	里好み	ヤマシギ	△	△			小さな沢
コゲラ	◎	○	○	◎	冬に集まる	シジュウカラ	◎	○	◎	◎	普通種	コチドリ	○	◎			スキー場草原
ハシマキ		△			高地稜線上	エナガ	◎	○	○	◎		イカルチドリ	○	◎			松川河原
アマツバメ	◎	◎			稜線上に多い	ゴジュウカラ	◎	○	○	◎	冬に集まる						
ツバメ	◎	◎	○			メジロ	◎	◎	◎		夏に多い						
イワツバメ	◎	◎	○		極めて多い	ホオジロ	◎	◎	◎		どこでも						
ヒバリ	◎	◎	○		平地に普通	カンラダカ	◎		◎		かなり多い						
ビンズイ	○	○	○		稜線に	ホオアカ	○	○			スキー場草原						
タヒバリ	○		○		水田	ミヤマホオジロ	○		○		少なくない						
キセキレイ	◎	◎	○		周辺、上流	アオジ	◎	◎	◎		意外に多く						
ハクセキレイ	○	○	○		平地水田	ノジコ	◎	◎	◎		周囲に多い						
セグロセキレイ	○	○	○		平地・姫川	クロジ	○	○	○		1000m以上						
サンショウクイ	◎	◎			かなり多い	アトリ	◎		◎	○	時に大群						
ヒヨドリ	◎	◎	◎	◎	普通種	ハギマシコ			○	○	餌台						
モズ	◎	◎	◎		普通種	カワラヒワ	◎	○	○	◎							
チゴモズ	○	○			周辺で子育て	マヒワ	○		◎	○	かなり多い						
ヒレンジャク	○		○	○	けっこういる	ベニマシコ	○		○		少なくない						
キレンジャク				△		オオマシコ	△				ぜひ呼びたい						
ミンサザイ	◎	◎			近くの沢	ウソ	○	◎	○	○	餌台						
カワガラス	○	◎	○		姫川、楠川	イカル	◎	◎	○		かなり多い						

註記
 ①出現鳥は、自身が確認したものに限る。
 よって、いる、いないの議論はご容赦のほど。
 ②カモ、サギ、シギチは、まだその気になって調査していない。
 ③出現鳥の符合は、
 ◎ しばしば
 ○ とまどき
 △ まれラッキー

りにピタリ合えば……。

冬鳥旅鳥の来訪は10月中旬から12月上旬の根雪が来るまで。適期は11月いっぱいがベスト。どうやら白馬村、姫川谷は野鳥達の渡りルートとして有力なものひとつらしく、アトリ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、ベニマシコ、マヒワ、ハギマシコ、マミチャジナイ、アオバト等々が次々に通過してゆきます。

タイミング合せが仲々大変なるも、うまくいけばケラ、カラ等留鳥と、山から下ったウソ、カヤクグリ、ルリビタキ等が皆一緒に見られるチャンスもあり、そんな時はもう最高の気分にはたれることうけあい。

●冬

白馬山麓の冬は白銀一色、12月中旬から4月上旬の4ヶ月は豪雪の中に埋没します。1、2月、厳冬のピーク時には2mを越す積雪になり、生活上の不便は大変なもの。

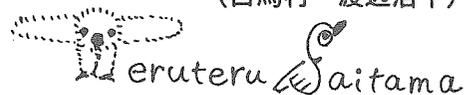
ところが実は白馬はこの大変な時期が年間で最も活力に満ちた季節なのでありまして、

連休、週末のスキー場は色とりどりのスキーヤーでもう大にぎわい……。こんな風によく、白馬の冬は鳥見には不向きかと思われがちなるも、あにはからんや、当山小屋の周囲はケラ、カラ達で大さわぎ。

昨冬実は邪道とは思いつつ餌台などで給餌してみたところ、近くの鳥達が全員集合する始末。目立つのはアカケラとアオゲラ。同時に4、5羽が鉢合せするのはごく普通。順番待ちが気の毒なほど。あとは突貫小僧のゴジュウカラと臆病者のカケスなど。

こうなったら邪道を極めんとして、今冬はウソ、マヒワ、ハギマシコ達にもお立ち寄り願わんかと、来客はそっちのけにして、あれこれメニューを考えている今日のごろ。暖かい食堂の窓から、旨いコーヒー飲みながら、近くに来た鳥達とにらめっこ。冬はこれも悪くないと思うのですが、……。

(白馬村 渡辺浩平)



鳥の目から環境を調べよう！

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

鳥の生態は年々変わっています。30年前、山でなければ見られなかったキジバトは今、われわれの住む環境で身近かに見られるようになりました。清流が消えていったと時を同じくして見られなくなったカワセミは、今は多少汚れている川でも、小さな土の崖があれば見られます。以前、深い森でなければ会えなかったコゲラも、樹々がある住宅地で繁殖するようになりました。

環境が適切であれば鳥は市街地や住宅地の様な人工環境にも進出します。このような人工環境におけるさまざまな鳥の生息の有無は、鳥の目で見えた人工環境の良し悪しを私たちに教えてくれます。

「鳥の目から環境を調べよう！」は、1985年から1990年まで5年間行なった埼玉県野鳥分布調査に引き続き、埼玉県における自然環境調査の第2弾として、市街地や住宅地など

人の住む環境に生息する鳥について5年間調査を行ないます。

年2回の調査期間中、夏(5月10日から7月10日)、冬(12月1日から1月31日)会員諸氏の自宅から半径50m以内で、「姿」、「声」、「上空通過」で生息が確認された種名を、1月と7月に『しらこぼと』に同封される調査はがきに調査期間中に確認された鳥を所定の項目とともに記入、探鳥会の時リーダーに渡すか、切手を貼ってご郵送ください。

本調査により埼玉県における

- ①人の住む環境に近づいている鳥の発見
- ②あなた自身が住んでいる環境の再認識などが得られます。

調査結果は「しらこぼと」に発表します。

(小荷田行男)

1995年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日 時：1995年9月15日

* 9:30~11:30 大久保農耕地

* 10:00~11:30 入間川

天 候：雨時々曇り

チドリ類の個体数をまとめたものです。秋の大久保農耕地では、稲刈りの時期や刈り取ってからの降水量などがシギ・チドリ類に大きな影響をあたえ、変化をもたらしているのではないかという結果が得られました。

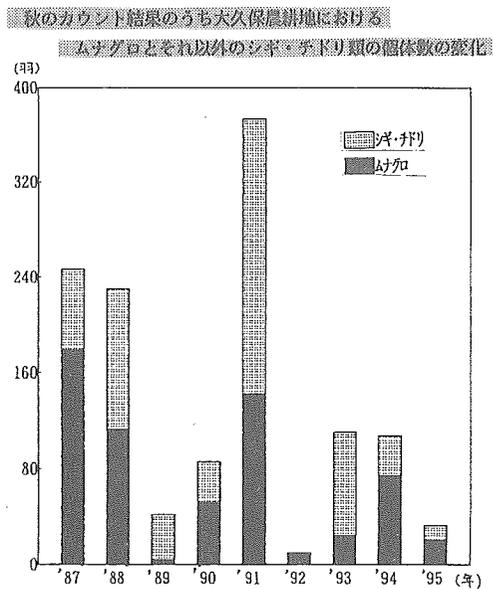
(石井 智)

9月15日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が行われました。この日は日本の南岸沖に前線があり、天気がぐずつきましたが、カウントの間は雨もあがり、支部会員12名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

今年の夏は昨年以上に気温が高く、記録的な暑さとなりました。それに加え、9月になってからはほとんど雨が降らず、数日前まではほとんどシギ・チドリ類がいないという状態でした。

観察された種数・個体数は5種35羽で、昨年の秋と比較すると種数で2種、個体数で94羽少なくなっています。これは、大久保農耕地でムナグロが53羽少なくなったのに加え、利根川での調査ができなかったことが大きな原因です。

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・



1995年秋 シギ・チドリ類調査結果

調 査 地	大久保農耕地 浦和市/大宮市			入間川/狭山市 (豊水橋~新富士見橋)			利根川/本庄市 (阪東大橋下流)		
	'93年	'94年	'95年	'93年	'94年	'95年	'93年	'94年	'95年
コチドリ	-	11	1	-	-	-	-	-	-
イカルチドリ	-	-	-	9	-	1	-	-	-
シロチドリ	-	-	-	-	-	-	調	-	調
ムナグロ	24	74	21	-	-	-	査	-	査
キョウジョシギ	-	-	-	-	-	-	デ	-	デ
トウネン	2	-	-	-	-	-	ー	-	ー
ハマシギ	-	-	-	-	-	-	タ	3	タ
アオアシシギ	-	-	-	-	-	-	な	2	な
クサシギ	-	1	-	-	-	-	し	-	し
タカブシギ	-	-	-	-	-	-		-	
キアシシギ	-	-	-	-	-	1		-	
イソシギ	1	-	-	8	5	-		4	
タシギ	80	19	11	-	-	-		-	
ジシギSP.	3	2	-	-	-	-		7	
個 体 数 合 計	110	107	33	17	5	2	-	16	-
種 数 合 計	5	5	3	2	1	2	-	4	-

カンムリカイツブリ ◇10月22日、狭山湖で5羽（上野越郎、倫郎）。

ゴイサギ ◇10月13日、熊谷市の別府沼公園で1羽（菱沼一充）。

アマサギ ◇9月15～16日、松伏町下赤岩と越谷市増森の古利根川弥生橋より200m上流の河原の立木で約600羽。15日午後4時頃から集まり始め、翌16日午前5時20分頃飛び立ち、約30分で1羽もいなくなった（橋口長和）。

ダイサギ ◇10月13日、熊谷市の別府沼公園で1羽（菱沼一充）。

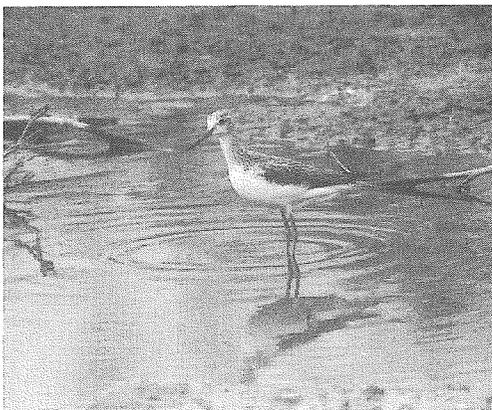
チュウサギ ◇10月1日、大宮市丸ヶ崎の稲刈りの終わったばかりの田んぼで1羽。この日はバードウォッチャーでなく、1日農家の私を全然恐れる様子もなく、すぐ近くで平気で採餌していた（藤原寛治）。

アオサギ ◇10月1日、川越市吉田新町小畔川調整池でダイサギを追いかけていた（上野越郎、倫郎）。

オナガガモ ◇9月24日、大宮市大和田の芝川でエクリプス♂2羽（浅見徹）。

ハシビロガモ ◇9月24日、大宮市大和田の芝川で♀2羽（浅見徹）。

スズガモ ◇10月10日、春日部市の増田新田のみどり住宅内東側遊水池に♀1羽飛来。10月15日現在滞在中。干潟状になった池の底土を盛んに漁っている（石川敏男）。



アオアシシギ（進藤 隆）

オオタカ ◇9月23日午前7時30分、大宮市宮ヶ谷塔の国道16号線上空で1羽。岩槻市方面へ飛び去る（藤原真理）。◇10月1日午後4時、大宮市丸ヶ崎の田んぼでねぐら入りを前に集まってきたムクドリの大群の下を飛んで行った。（藤原寛治）。

オオバン ◇9月26日、三郷市さつき平の調整池で2羽。ここでは初めて（山部直喜）。

ヒクイナ ◇10月4日、吉見町の八丁湖脇の湿地で1羽。（高橋達也）。

コチドリ ◇9月23日、寄居町の玉淀川原で3羽。（小池一男）。

メダイチドリ ◇9月30日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で幼鳥1羽（高橋達也）。

ヒバリシギ ◇9月3日、春日部市不動院野の休耕田で2羽。（入山博）。

エリマキシギ ◇9月3日、春日部市不動院野の休耕田で4羽。午後4時頃北の方から飛んできて15分位いて、南の方へ飛び立った（入山博）。

ツルシギ ◇9月23日、吹上町小谷の荒川河川敷内の水田で1羽（石井智）。

アオアシシギ ◇8月24日、春日部市不動院野の休耕田で5羽（入山博）。◇10月13日、熊谷市の別府沼公園で8羽（菱沼一充）。◇10月14日、熊谷市の別府沼で14羽。辺りが薄暗くなりかける頃、沼の一角にあるねぐらに「キョーキョーキョー」と鳴きながら次から次へと帰ってきた（鈴木博志）。

クサシギ ◇8月23日、春日部市不動院野の休耕田で1羽（入山博）。

タカブシギ ◇8月24日、春日部市不動院野の休耕田で3羽（入山博）。

キアシシギ ◇8月24日、春日部市不動院野の休耕田で16羽（入山博）。

チュウシャクシギ ◇9月1日、本庄市の利根川坂東大橋下流の中洲上空で1羽。2回旋回し、鳴きながら上流へ向かう（小池一男）。

コアシサシ ◇8月24日、春日部市不動院野の休耕田で2羽（入山博）。

カッコウ ◇9月27日、大宮市日進1丁目で1羽。10月3日にも1羽（森本國夫）。

ツツドリ ◇9月21日、大宮市日進1丁目で

1羽。10月9日にも1羽。この個体はカラス追われて窓ガラスにぶつかり、昇天。体重166gでした(森本國夫)。◇9月30日、行田市のさきたま古墳公園で2羽(菱沼一充)。◇9月30日、岩槻市新方須賀地区の農家の庭先で1羽。ツツドリと思われる(石川敏男)。

ヒメアマツバメ ◇9月13日本庄市の利根川坂東大橋下流で1羽。夕方職場の鳥好き仲間4人とミニ探鳥をしていた時、ショウドウツバメに混じって飛んでいた(小池一男)。

カワセミ ◇9月23日、吹上町小谷の荒川河川敷内の水田で1羽(石井智)。◇9月19日、三郷市さつき平の調整池で1羽。ここでは初めて(山部直喜)。◇10月5日、飯能市下畑、成木川付近で全部で♂5羽♀4羽。カワセミが増えました(藤森三治・恵美子)。◇10月13日、熊谷市の別府沼公園で1羽(菱沼一充)。

モズ(高鳴き) ◇9月26日、岩槻市の元荒川岩槻橋上流左岸で2羽。枝先で高鳴き(中村榮男)。◇10月2日、浦和市上野田で高鳴きを聞く(藤原寛治)。

ノゴマ ◇10月7日、三郷市さつき平のマンション入口のガラスに激突したところを保護。ポポンS2滴を飲ませるも首を振って嫌がる。のどの赤は、かきわけてみると表面だけだと分かる。体重は30gでした(山部直喜)。

ノビタキ ◇10月3日、飯能市下畑、成木川付近で♀1羽。5日にも♀1羽。11日には、♂♀各2羽。秋は雌雄の区別がしにくい(藤森三治・恵美子)。◇10月14日、北川辺町の渡良瀬遊水池で1羽(上野越郎、倫郎)。◇9月23日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で1羽(海老原美夫)。◇9月30日、

表紙写真・原稿・カットetc 大募集!!

今まで表紙の写真は、フォトコンテスト入選作品から選んでいましたが、採用の幅を広げることになりました。季節感あふれる作品をお待ちしています。キャビネプリントに20字10行程度のコメントを添えてお送りください。ビデオプリントでもかまいません。作品はお返しできません。採否は編集部にお任せください。表紙ではなく、カット写真として使わせていただく場合があります。

投稿原稿、野鳥情報、カットもどうぞ!!

熊谷市大麻生の旧押切橋付近で2羽(菱沼一充) ◇9月30日、行田市のさきたま古墳公園で4羽(菱沼一充)。

トラツグミ ◇10月23日、戸田市の戸田公園で1羽。ここでは初めて(高橋達也)。

キビタキ ◇9月30日、行田市のさきたま古墳公園で♀1羽(菱沼一充)。

サメビタキ ◇10月2日、戸田市の彩湖脇の林で1羽(高橋達也)。

コサメビタキ ◇9月14日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で2羽。シジュウカラと森の中の池で水浴びをしていた(新堂克浩)。◇9月27日、大宮市日進1丁目1羽(森本國夫)。◇9月30日、行田市のさきたま古墳公園で2羽(菱沼一充)。

メジロ ◇10月2日、大宮市日進1丁目1羽以上。今期初認(森本國夫)。

スズメ ◇10月13日、熊谷市の別府沼公園で100羽以上。岸边のアシがねぐらになっている(菱沼一充)。

カケス ◇9月21日、大宮市日進1丁目1羽。10月5日にも1羽(森本國夫)。

表紙の写真

ベニマシコ (アトリ科)

石戸宿の冬のスター、ベニマシコがやってきました。

多くのカメラマンが、その美しい“赤”を求めて集まりました。

判官びいきの私は、オスの美しいほど、そ

バードフォトコンテスト1995入選作品

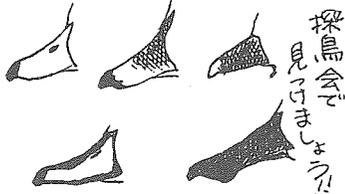
の種のメスが好きです。この冬は、そのメスのみを追い求めました。

オスには感じられない、メスのやさしい目の光が好きです。

小出 博(鶴ヶ島市)

行事あんない

カモのくちは"して"す。



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市・石川館定例探鳥会

期日：12月3日(日)

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後、タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、吉原、内藤、榎本、永野(安)、永野(京)、川那部

見どころ：鳥たちで賑わうこの季節。すでにベニマシコ、キツツキ御一行様到着(済)。あとはタカ日和を祈るだけ。期待の鳥に会えたら年末ジャンボに当たるかも。

北本市・坂東大橋探鳥会

期日：12月3日(日)

集合：午前8時50分 JR高崎線本庄駅北口集合後バスで現地へ。十王バス8:55発新伊勢崎行にて「坂東大橋」南詰下車。

担当：町田、小池、林(滋)、中島(章)、石井(博)、和田、倉崎、新井、森

見どころ：冬の当地は最高！カワアイサを筆頭にカモ達が約10種観察できます。そのカモを狙う、オオタカ、ハヤブサが出現すれば自然のドラマも満喫。おまけは一寸厚着して“からっ風”体験！

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：12月9日(土)

集合：午前9時20分 吉見百穴入口前

交通：JR高崎線鴻巣駅東口、東海銀行前より東武バス8:40発に乗車、「百穴入口」

下車、徒歩5分

担当：榎本、岡安、吉原、内藤、高草木、立岩、藤掛

見どころ：吉見百穴のまわりは年々変わってしまうけど、大沼には今年もカモが来ています。そっと覗いてみましょう。お目当てのあのカモもいるかも……。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月10日(日)

集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅前
交通：西武狭山湖線西所沢8:59発→西武球場前9:04着

担当：三田、石井(幸)、長谷部、杉本、藤原(佳)、小野、中村(祐)、山本、久保田

見どころ：『気ままにバードウォッチング』のコース15を歩きます。真っ白なカムリカイツブリはもちろん、森の冬鳥達もあなたを待っています。冷たい風が吹きます。防寒対策をお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：森本、小池、田口、斎藤、中島(章)、和田、石井(博)、菱沼(一)

見どころ：本格的な冬鳥の季節、カモやコハクチョウなどの水鳥、ジョウビタキや

シメなどの小鳥、オオタカやノスリなどの猛禽の登場で役者は勢揃いです。(転勤転居でチーフリーダーを降りる事になりました。お世話になりました。時々足をはこびますので今後ともよろしくお願い致します。菱沼一充)

大宮市 深作川水辺池探鳥会

期日：12月10日(日)
集合：午前8時45分 JR宇都宮線東大宮駅東口、集合後バスで現地へ。または、9時15分アーバンみらいバス折返場
担当：中島(康)、林(慎)、吉安、墨江、中村(栄)、玉井、浅見(徹)
見どころ：初冬の田圃ではタゲリやタシギ、川ではホシハジロやオカヨシガモが楽しめます。

浦和市 三室地区恒例探鳥会

期日：12月17日(日)
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、伊藤、笠原、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田
見どころ：三室も今年最後の探鳥会になりました。クイナとケリが初出現した年、それにも増して新参加者が増えたうれしい年でもありました。今月で140回目探鳥会になります。年末の多忙なときですが、鳥とたんぽを見にどうぞ。

滑川町 武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月17日(日)
集合：午前9時30分 森林公園南口駐車場
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乗車、終点下車
費用：入園料390円(子供80円)
担当：内藤、吉原、岡安、榎本、佐久間、長谷部、石井(幸)、藤掛
見どころ：冬の森林公園第二弾！ひとけも少ないこの時季、梢をわたる小鳥たち

を目と耳で探しましょう。カラ類の混群に何種いるかな？ オシドリのいる沼にもたち寄りますヨ。

「いばらばと」袋づめの会

とき：12月23日(土)午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局108号室
今年も最後の年忘れ袋づめの日になりました。ボランティアでお手伝いしてくれた方々、ありがとうございました。来年もまた忘れずをお願いします。

探鳥会

期日：12月24日(日)午後1時30～4時30分。(受付開始、午後1時)
会場：埼玉県県民活動総合センター(伊奈町) TEL 048-728-7111
交通：ニューシャトル大宮駅12:00又は12:30発、羽貫駅下車、送迎無料バス接続(大宮駅から会場迄約45分)。又はJR上尾駅東口から伊奈学園行きバス12:48発、終点下車、徒歩10分(上尾駅から約35分)。無料駐車場あり。
第1部 ビデオによる「今年の支部の出来事」午後1時30分～午後2時
第2部 松田輝雄講演会「野鳥や自然について」午後2時～4時30分
NHKのアナウンサーとしてご存知の松田さんの豊富な話題から楽しい話がいっぱい聞けます。
第3部 懇親会(希望者のみ)午後5時～午後6時30分 参加費4000円 1階レストランで松田さんを囲んでの楽しい語らいの場を設けました。多数のご参加をお待ちしています。

- ◆ 新春恒例のアフターに「サンズイドリ」を楽しむさぎ山記念公園探鳥会は12頁。
- ◆ 平成8年1月27日(土)～28日(日)伊豆沼探鳥会(予約制)詳細は1月号。
- ◆ 12月1日にJRのダイヤ改正があります。列車の時刻に注意してください。

行事報告

9月23日(土、休) 寄居町 鐘撞堂山

参加: 51人 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ ササゴイ オオタカ サシバ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 今年後半の異常高温と当日の天気の悪さが重なって、飛んでくれた鷹はサシバとオオタカ1羽ずつと淋しいばかり。さらにサメビタキ属の小鳥たちやトケンの仲間まで現われてくれない。参加者が増えると鳥が出ないという何とかの法則よりも、メインリーダーの普段の行いが悪いせいかもしれない。皆さんすみません…

(田口浩司)

9月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

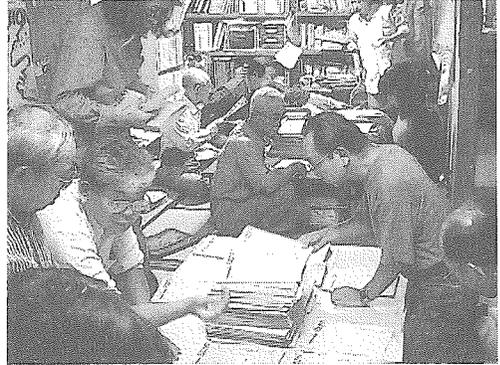
ボランティア: 16人

荒木恒夫、石井幸男、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、角田真喜子、門谷直樹、河辺昌治、佐久間博文、中村榮男、藤掛保司、藤野富代、森 力、渡辺喜八郎

信じられないでしょうが、袋づめの会は、鳥のシラコバトを詰め込むのかと首をかきつけていた方が、また一人見つかりました。そうではないのです。この支部報『しらこぼと』を封筒に入れ、発送の準備作業をする会なのです。

定刻前から集まった会員たちが、刷り上がったばかりの『しらこぼと』を、あて名ラベルを貼った封筒に次々と入れて封をしていきます。その数2000通以上。全部入れ終わったら、今度は郵便番号別に分けて束ねます。一束ごとに通数を数え、月曜日に事務局が郵便局まで運ぶ箱におさめて、合計の通数を計算します。はい、ご苦労様、お茶の時間です。

野鳥情報などが飛び交うおしゃべりの後は、写真クラブ定例会。最近ではビデオ映像の紹介が主流になっています。



10月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 71人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ コガモ サシバ コジュケイ バン キジバト ホトトギスsp コゲラ ヒヨドリ モズ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ、カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 南へ渡るサシバが何度か上空を帆翔。山から降りてきたカケスが林から林へヒラヒラと移動する姿が見られた。八重塚では樹間を動くカラ類を観察。双眼鏡が使えないほどの近距離で見たメジロのアイリングは印象に残った。散会后、豚汁と赤飯のサービス。(岡安征也)

10月1日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 32人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ コサギ カルガモ サシバ イソシギ ユリカモメ キジバト ツツドリ カワセミ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 秋晴れの見沼たんぼ上空に14羽のサシバが渡り、旅途中のノビタキ、ツツドリがいて、秋の渡りの鳥たちが第1回定例探鳥会を歓迎してくれました。民家園の職員の皆様、そして参加者の皆様とともに、人の輪を大切に、楽しく探鳥会を続けていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。(見沼ヘルシーロード、差間探鳥会)

は、民家園周辺探鳥会に吸収。この日は、差間コース。(手塚正義)

10月8日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

10月10日(火、休) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ コジュケイ アオアシサギ イソシギ キジバト ホトトギス SP カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 秋晴れの中、総勢51人で8kmの道のりを完歩しました。木に止まるミサゴ、上空を飛ぶオオタカ、群れで渡るカケスやヒヨドリ、大群のショウドウツバメ等、秋の渡りのシーンを十分楽しめた探鳥会でした。(中島康夫)

10月15日(日) 浦和市 三室地区

参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キジバン クイナ タカブシギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) すばらしい秋空。9月の探鳥会が初めて中止となったので、2ヵ月ぶりの常連の参加者の再会となった。鳥もいいが三室はやっぱり人がいい。それが確認できたのが非常に嬉しい。これからは和気あいあいに探鳥会をやっていこう。鳥たちも、黄、黒、白の揃い踏みセキレイたち、久しぶりのカワセミも出現。心も快晴の探鳥会だった。(楠見邦博)

10月29日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 43人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ バン キジバト コ

ゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 暑くなく、寒くない探鳥会日和だった。ジョウビタキ♂♀、ツグミと当日初認の人もいて盛り上がった。カケスも多数出現し、土にドングリを埋めるのを見た人もいた。一寸残念なことは、カモの仲間の数が少なかったことと定番のシメが出なかったこと。(内藤義雄)

10月20日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 27人 天気: 曇

コサギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (19種) 今回も雨に降られるかと案じた天気も次第に回復。期待の冬鳥はダメだったが、雑木林の中ではメジロ、シジュウカラ、コゲラの混群を頭上に観察できた。お陰で首が痛くなる。林を抜け、広々とした刈り田では、ハクセキレイやタヒバリを見る。初心者の方にはプロミナーを通して見ていただけてよかったと思う。穏やかな日和の半日、確認種数は少なかったが、参加の皆さん、次回をご期待下さい。

(石川敏男)

10月29日(日) 川越市 西川緑

参加: 30人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジイカルチドリ タゲリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 曇りで午後は雨の予報だが、何とかもちそう。水上公園の池で、カワセミがロープの上に止まって十分見られた。そうこうしている内に上空を今季初めてのタゲリが数羽飛んでいった。川原に出て、カモ、セキレイを見て歩いていると、ヒバリが2羽隠れているつもりなのを近くで見られた。(佐久間博文)

連絡系 中長

●黒田会長特別チームに協力

10月8日(日)のバードソン。あいにく朝から雨の悪条件でしたが、10月号本欄で紹介した黒田会長特別チームには、会長や本部職員、近県支部代表者ら13名が集まり、そのうち4名が埼玉県支部からの参加でした。鳥は散々、ムクドリもいないたった13種でしたが、傘をさしながらごやかな探鳥と、本部事務局で会長を囲んでの昼食会が続けられました。

●海老原評議員を継続推薦

財団法人日本野鳥の会本部の組織として、評議員会という制度があります。学識経験者や全国の支部の代表者で構成され、年1回の定例会議などを通じて、会の寄付行為に定められた事項や運営について、さまざまな意見を述べ、議論します。

評議員の任期は3年で、現在の第5期の評議員の任期は来年1月31日までです。そのため、現在第6期の評議員選出の手続きが進められています。

埼玉県支部では、海老原美夫副支部長が第5期の評議員をつとめていましたが、支部役員会で協議の結果、同人の続投を推薦することになり、11月1日付けで会長からの委嘱状も届きました。支部の代表であるという立場を踏まえながら、一支部にとらわれない広い視野での活動が必要です。

●野生の生きもの写真コンクール

主催 埼玉県

テーマ 県内で撮影された野生生物(魚、両生類、爬虫類、鳥、哺乳類、昆虫、植物)の生態

募集期間 平成7年12月1日から平成8年1月31日まで

入賞作品の著作権は県に所属します。規格など詳しい事は、〒336 浦和市高砂3-15-1

埼玉県環境部自然保護課野生生物係(TEL 048-830-3154)にお問い合わせください。

はみ出し行事案内

■浦和市・さぎ山記念公園探鳥会■

期日:平成8年1月3日(水・祝)

集合:午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場

交通:大宮駅東口7番バス乗り場から中野田引返し場行きで約20分、上野田下車。

当日は正月ダイヤで、1時間に3~4本運行されるはずす。

担当:桜庭、松井、楠見、工藤、新堂、藤原(寛)、高松、佐藤(進)。

見どころ:毎年恒例、この日だけはお酒持参OK。野鳥たちへの挨拶の後、鳥仲間たちと新年のご挨拶。

●12月の土曜日当番(2時~6時)

2日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)

9日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

16日 内藤義雄 森本國夫(校正の日)

23日 袋づめの会(1時から)

30日 事務局休み

●会員数は

11月2日現在合計 2,709人です。

活動報告

10月7日 普及部会議。

10月14日 『しらこぼと』10月号編集会議。

10月15日 役員会議(司会:工藤洋三、各部の報告、4月までの探鳥会予定、アズ熊谷パネル展の準備、サブリーダーについて、その他)。

10月21日 10月号校正作業(工藤洋三、新堂克浩、藤原佳子、町田好一郎)。

編集後記

6月にオーストラリア・カカドウに、10月に中国・北戴河に行ってきた。鳥の種類もさることながら、人と鳥との距離の違いもおもしろい。(海老原)

『しらこぼと』1995年12月号(第140号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用